



鶴岡協立リハビリテーション病院
リハビリ科科長 福村 直毅 先生

～病院のノウハウを詰め込んだ新しい介護食～

年とともにのどの力が衰え飲み込みが悪くなり窒息や肺炎の危険が高まります。窒息や肺炎は命を奪うものであり、助かっても生活能力が低下します。食べる力もさらに落ちてしまいます。

そうした時に用いられるのがソフト食ですが、従来のソフト食は歯がなくなるなどして硬い物が咬めなくなった方のために作られていて、食感や風味において、利用者が食事を楽しむのに十分な配慮がなされているとは言えないものも多くあります。またソフト食は厳密には嚥下食ではありませんので、飲み込みが悪くなった方にとって安全なのか十分検証されていません。

「まるやか食専科」は、見た目は元の素材に近いものでありながらも安全性を得られるよう何度も検討を重ねました。おいしくて安全なまったく新しい介護食です。